

中小企業の後継者のための「学びの場」

# 大同 マネジメント アカデミー

神戸大学MBA方式採用

思いを紡ぎ  
未来へと羽ばたく



## コンセプト

経営理論を使い  
自社の経営課題を論理的に考える力を鍛える

## 特徴

MBAのエッセンスをベースにした中小企業の後継者のための研修プログラム

## ねらい

経営理論を使い自社の経営課題を明らかにし、  
中長期的な発想で自社を変革しリーダーシップを発揮できる経営者になることを目指す

対象	中小企業の後継者及び後継者候補(既に経営者の方で、就任後3年程度の方までお申し込みいただけます。)	受講人数	15名(先着順)
期間	10月14日～3月17日の6ヶ月、計10回の講義、月2回程度	講義時間	9時～17時 (一部変更の場合があります)
開催地	大阪(会場は大同生命大阪本社及び神戸大学)	講義内容	集合・対面授業 家業の経営計画書を策定
講師	主に神戸大学大学院経営学研究科教授・現役経営者等 《神戸大学 現代経営学研究所(RIAM)と提携》	費用	一人当たり35万円(税込)

※本研修プログラムは当社との保険契約の有無に関係なくお申し込みいただけます。

紹介動画  
はコチラ



[https://youtu.be/eGp\\_zP8xLWQ](https://youtu.be/eGp_zP8xLWQ)

お申込み  
はコチラ



<https://bit.ly/3ucYpMo>

## 講師紹介



忽那憲治/神戸大学 教授

1992年(財)日本証券経済研究所大阪研究所研究員、1995年大阪市立大学経済研究所講師、助教授を経て、2002年神戸大学大学院経営学研究科助教授、2005年から同教授。専門分野はアントレプレナーファイナンス、アントレプレナーシップ、イノベーション、ファミリービジネス。博士(商学)。



伊藤宗彦/大手前大学 教授

名古屋大学工学部卒、松下電工株式会社(現パナソニック)を経て、神戸大学大学院経営学研究科博士課程、2003年より神戸大学経済経営研究所准教授、2007年より同教授。2022年より大手前大学教授。専門分野は、テクノロジー・マネジメント、イノベーション・マネジメント、経営戦略・組織論。博士(商学)。



栗木契/神戸大学 教授

1997年岡山大学経済学部講師。2003年神戸大学大学院経営学研究科助教授などを経て、2012年から同教授。専門分野は、マーケティング、ビジネスモデル、起業家マーケティング、ブランド・マネジメント。博士(商学)。



西谷公孝/神戸大学 教授

神戸大学経済経営研究所准教授、ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校客員研究員等を経て2016年より神戸大学経済経営研究所教授。2020年より同研究所副所長、日本学術会議連携会員を兼務。専門はサステナビリティ経営。博士(経営学)。



梶原武久/神戸大学 教授

1997年小樽商科大学商学部講師、助教授を経て、2006年より神戸大学大学院経営学研究科准教授、2013年から同教授。専門分野は管理システム、管理会計、コスト・マネジメント。企業内部やサプライチェーンにおける会計情報の役割について理論的・実証的研究を行なっている。博士(経営学)。



松尾貴巳/神戸大学 教授

1991年株式会社三菱総合研究所入社、同社経営コンサルティング部研究員を経て1998年大阪府立大学経済学部准教授、2004年神戸大学大学院経営学研究科准教授、2011年より同教授。2021年より副学長(企画・人事・財務・総務)、営利・非営利組織におけるシステムの有効性に関する研究を進めている。博士(経営学)。



鈴木竜太/神戸大学 教授

1997年静岡県立大学経営情報学部助手、専任講師を経て、2003年より神戸大学大学院経営学研究科准教授、2013年から同教授。専門分野は、組織と職場と人のマネジメント。博士(経営学)。

**本** 研修プログラムは、神戸大学経営学研究科の社会人コース(MBA)のエッセンスをベースにした、中小企業の後継者のための研修プログラムであり、経営者の「経営理論に基づき実践的な問題を解決する能力」を鍛え上げることを目的としています。

本研修では、経営学を体系的に理解し、経営理論を用いて論理的に自社課題を解決するプロセスを学びます。

座学だけでなく、様々な事例によるディスカッションを設け、企業が直面する課題の真因を分析、解決策を導きだします。また、経営学に基づき自社の課題を明確化し、中長期的な視点で変革ができるリーダーシップ力を養います。さらに、自社が将来直面する経営課題を見据え、10年先のあるべき姿を描く作業を実施、近視眼的な経営から、将来志向の経営へ転換できる力を習得します。



## 学習ステップ

講師による講義

ワーク・ディスカッション  
による理解の深耕

自社に照らした  
課題の検討

発表とディスカッションを  
通じた自社課題検討の深耕

将来のあるべき姿と  
実現ステップの明確化



## カリキュラム日程

日程	概要
2022年 10月14日 —金—	<p><b>中小企業に求められるアントレプレナーシップ(企業家精神)と事業革新</b></p> <p>前半   会社を継承・発展させていくためには、第2・第3創業と、継続的な事業変革を意識する必要があることを学び、そのために経営者に求められる企業家精神とは何かについて考える。</p> <p>後半   中小企業経営者による講演を通じて、会社の持続的成長のために、何を守り変革するべきか、経営者としての構えを意識するきっかけを作る。</p>
10月31日 —月—	<p><b>DXと事業革新を実現する経営戦略</b></p> <p>中小企業の経営戦略を学び、特に、DXによる事業変革を認識し、情報技術(IT/IOT)と自社事業との関連、変革の可能性を考える。</p>
11月11日 —金—	<p><b>中小企業のマーケティングとブランド価値創造</b></p> <p>自社は顧客にどのような便益・価値を提供しているのか、顧客視点で自社ブランドの価値をとらえ、新たな価値の付加及び価値創造の可能性を考える。</p>
11月25日 —金—	<p><b>中小企業の事業承継と新規事業開発</b></p> <p>経営資源と後継者のスキル・情熱を基に新規事業に挑戦し、ベンチャー型事業承継を実現した経営者の経験を通じて、事業の可能性を見出す。また、ビジネスアイデアの発想法を活用し、ディスカッション等を通じて、新規事業のタネを考える。</p>
12月9日 —金—	<p><b>SDGs視点の経営と社会課題解決型ビジネス</b></p> <p>SDGsと企業との関係を環境、地域社会、雇用、自社製品・サービス等、多様な視点で整理。SDGsに対する自社の関連性・貢献、事業変革の可能性を考え、SDGsの視点を経営に取り込んで成功した事例を学ぶ。</p>

日程	概要
12月26日 —月—	<p><b>自社課題への落とし込み(中間発表・ディスカッション)</b></p> <p>10年後の自社は、「こうありたい、あるべき姿(規模、事業内容)」を考える。自社の事業機会・脅威、強み・弱みを整理し、発表、ディスカッションを通じ、新たな気づきやアイデアを得る。</p>
2023年 1月20日 —金—	<p><b>中小企業に求められるリーダーシップと人的資源管理</b></p> <p>創業者、後継者に必要なリーダーシップ、また会社の成長・経営者交替時の従業員管理・人材育成に何が必要かを学び、「ひと」の視点で、リーダーシップ・人的資源管理のあり方について考える。</p>
2月13日 —月—	<p><b>組織デザインとコントロール、業績評価指標の選択と目標設定</b></p> <p>会社を「仕組み」で動かすための管理要素を学ぶ。自社の活動状況・健康状態を客観的に測定・評価する指標の種類、設定、運用方法を学び、自社に適した「仕組み」のデザインを考える。</p>
3月3日 —金—	<p><b>戦略的コストマネジメントとオペレーションマネジメント</b></p> <p>会計数値を活用しながら、持続的利益を生み出すための戦略を策定し、それを実現するための強靱な収益構造とオペレーションを構築するための方策について学ぶ。</p>
3月17日 —金—	<p><b>最終発表会(最終発表・ディスカッション)</b></p> <p>10年後の自社のあるべき姿、自社の事業機会・脅威、自社の強み・弱みを改めて整理。あるべき姿を実現するために自社の重要な経営課題を考察し、自社に対する経営計画書としてまとめ、講師の指摘や議論を通じて得た新たな気づきやアイデアを加え完成させる。</p>